

令和7年度 島田樟誠高等学校 学校評価書

教育目標

自ら求めて学ぶ自主自律の精神を養い、心身を鍛えるとともに、校訓「誠、愛、勇」の下に人格の完成をめざす。

教育方針

- 1 充実した学校生活を送るために明確な目標を持たせる。
- 2 学習に積極的に取り組む姿勢を育て、学力を向上させる。
- 3 部活動などに積極的に取り組む姿勢を育て、心身共に健やかな成長を図る。
- 4 思いやりの心や規範意識を育み、社会性を身に付けさせる。
- 5 進路意識を高め、組織的・系統的な指導を通して進路目標を達成させる。

令和7年度における学校経営方針と具体的目標

学校経営方針	具体的目標	自己評価	成果と課題	関係者評価
教育課題への取組	創立百周年に向けて目指す学校像や育てたい生徒像を再定義して共通理解を深め、実現のために具体的な対応を行う。	A	創立百周年に向け全教員の意見を聴取しつつスクールミッション、スクールポリシー案を策定した。次年度百周年のために6係（広報全体調整、行事式典、記念誌、記念事業記念品、渉外、学校改革）を立ち上げ全職員が準備を行った。各係の責任者が進捗状況を報告する準備委員会を4回実施した。令和8年度生徒募集状況は、1月26日現在、単願265人、併願462人で、昨年（単願240、併願437）を大幅に上回っている。この項目に関する保護者アンケートでは83%が達成と評価した。	A
	授業を効果的に実施するためICT教育を積極的に推進する。	A	年次ごと整備していたiPadが今年度全学年そろった。同じくモニターも全クラスの配備が完了した。教員の授業でのiPad活用97.4%（昨年74.3%）教室でのモニター活用92.3%（昨年74.3%）授業でのロイロノート活用89.7%（昨年52.8%）と調査項目全てで大幅に向上している。この項目に関する保護者アンケートでは84%が達成と評価した。	A
	部活動や生徒会活動等に全力で取り組み、心身を鍛え達成感が持てるように指導する。	A	全校の部活動加入率は69.8%（昨年69%）で昨年並み。加入割合は運動部68.4%、文化部31.6%であった。運動部の主な活動実績（高校総体、新人戦、選手権等）では、卓球部女子の活躍が目覚ましかった。インタハイ県個人3位、ダブルス2位で全国出場を果たした。団体戦は県2位で東海総体出場、冬の東海選抜では5位に入賞。2年連続の全国選拔出場を決めた。また全日本卓球選手権に個人、ダブルスで出場した。その他の県大会出場は、バレー部、卓球部男子、野球部、サッカー部、バドミントン部、柔道部、弓道部、水泳部。文化部も各種イベント、コンクールに積極的に参加した。この項目に関する保護者アンケートでは90%が達成と評価した。	A
目標意識の醸成	学校生活の様々な場面で具体的な目標を持たせる。	A	年度当初各学年、クラス、分掌、委員会等で目標と年間計画を作成した。クラス目標は全教室で大きく掲示し日々生徒教員ともに意識させた。年度当初個別面接で個々の生徒目標をクラス担任が確認できるよう面接週間を行事に位置づけた。同様に1学期末の三者面談期間も設定している。この項目に関する保護者アンケートでは85%が達成と評価した。生徒対	A

			象アンケートで「行事に満足」と回答した生徒割合は 54%であった。	
	目標達成の手掛かりとして資格試験や検定試験等に積極的に挑戦させる。	A	生徒たちが挑戦した各種検定は、漢字検定、英語検定、数学検定、日本語ワープロ検定、情報処理検定、文書デザイン検定、プレゼンテーション作成検定、簿記能力検定等である。2級以上の上位合格者数(1月20日時点)は、漢検(10人)英検(6人)数検(1人)日本語ワープロ(1人)表計算(2人)文書デザイン(3人)プレゼン作成(16人)である。この項目に関する保護者アンケートでは85%が達成と評価した。	A
学習指導の充実	校内や校外の研修に積極的に取り組み、教員の資質向上に努める。	A	研修委員会が主催し初任者研修、初任者研究授業を行った。2学期に全教員が ICT 機器活用を意識した公開授業を行った。3学期に校長指名による公開授業、外部からゲストティチャーを招いてハイレベル授業を実施した。県私学協会主催の各種研修(初任研、5年研、10年研、リーダー研)に該当教員が参加した。また全国私学専門研修会(校長)体育実技認定講習会(体育科教員)高校特支養護教員研修会(養教)中部私学研修会(副校長)が参加した。生徒対象アンケートで「教員に満足」と回答した割合は60%であった。なお保護者アンケートでは91%が満足と回答した。	A
	授業の質を高める探究学習、及び地域と関わる学習活動を積極的に行う。	A	キャリア探究コースは、外部組織「探究のミカタ」と連携し外部企業の課題解決に取り組んだ。進学探究コースは、静岡大学と連携し大学生ゼミ発表会に参加した。特別進学コースは、地域企業(パン菓子販売)の商品開発に静岡大学とともに関わったり、LGBT サークル活動に加わり多様な価値観から問題の最適解を探究した。その他島田市の平和祈念事業等にも一部有志が参加した。生徒対象アンケートで「授業に満足」と回答した生徒割合は55%であった。この項目に関する保護者アンケートでは81%が達成と評価した。	A
	朝読書等を通じて、読書の習慣を身に付けさせ、語彙力・読解力を向上させる。	B	年間を通して毎朝10分間の朝読書を実施するとともに、定期的に図書委員が全校放送で読書記録記入を呼びかけた。読書習慣定着のため「図書館だより」を7号発行した。(3月末までに9号発行予定)また図書委員会主催で「読書王」(年間最多読書者)「図書館王」(年間最多図書館本借受者)を表彰した。今年度の読書王は64冊(2名)、図書館王は172冊であった。さらに国語科主催で夏季休業中に生徒個々に読みたい本を選ばせ購入させる取組を今年度も行い、生徒たちの読書への関心を高める一助となった。この項目に関する保護者アンケートでは77%が達成と評価した。	B
生活指導の徹底	欠席、遅刻をしない規則正しい生活習慣を確立させるとともに、自己指導能力を育てる。	A	全校生徒の月別出席率の平均は96.8%(12月末時点)で概ね良好。2学期末生徒対象学校生活アンケートの結果、「満足」「やや満足」と回答した生徒割合は1年49%、2年57%、3年58%であった。規則正しい生活習慣を定着させる教育に対して、保護者アンケートは94%が達成と評価した。生徒対象アンケートで「現在の学校生活に満足・やや満足」と回答した生徒割合は78%であった。	A
	全教職員が共通認識を持ち、統一感のある生徒指導を行う。	B	生徒指導に継続性を持たせるため服装頭髪、眉ピアス指導を毎月実施した。一方教員間にブレがないよう学期に一度全校指導の機会を作った。今年度生徒指導(校長訓戒以上)の件数は、1月20日現在18件であり、昨年同時期14件より若干増加している。生徒指導内容として SNS 上での不適切動画取扱など重大事態につながる件も昨年に引き続き発生した。全	B

			<p>校生徒対象にスマホ講座、男女別モラル講座を実施するなど、生徒たちの規範意識向上を図った。一方悩みを抱える生徒を支援するためスクールカウンセラー2名が週3日来校している。今年度の利用者数(1月20日現在)は75人である。複数回利用する者も含め利用が定着している。</p>	
進路指導の充実	<p>「夢実現プロジェクト」等を有効活用し、明確な進路目標を早期から持たせる。</p>	A	<p>夢プロ授業は各学年とも週1時間だが、授業以外の場面でも生徒、教員が連携して進路探究につながる活動を行った。1年では外部機関「探究のミカタ」と連携し、企業課題に取り組み他者との協働による課題解決の手法を学んだ。2年ではグループ学習や外部講師招聘の機会を積極的に設け、自己の進路を探究した。3年では各自の進路希望に応じて具体的な活動を行った。3年の1月20日時点の進路状況は、就職内定75人(内定率93.15%)、進学先決定者143人(決定率94.7%)であった。なお3年における夢プロ指導は、担任以外に各HR別教員を充てるティームティーチング制で手厚い指導を行っている。この項目に関する保護者アンケートでは86%が達成と評価した。</p>	A
	<p>進路目標を達成させるために、組織的、体系的な指導を強化する。</p>	A	<p>3年生一人一人に担任以外の進路サポーター教員を充てて指導する「進路集会」を年間6回実施した。1月20日時点の主な就職先は、スズキ株式会社8人、小糸製作所1人、矢崎計器7人、矢崎部品3人、ヤマハ発動機2人等である。進学も特別進学コース、進学探究コースともに国公立大学合格者を複数出すなど着実な実績を上げている。1月20日現在、特別進学コースで筑波大学、新潟大学、静岡大学、静岡県立大学、都留文科大学等、進学探究コースで静岡大学、北見工業大学、静岡県立農林環境専門職大学等へ合格した。その他キャリア探究コースも含めて、地元私立大学の常葉大学34人、静岡産業大学13人、静岡福祉大学1人などにも合格した。この項目に関する保護者アンケートでは86%が達成と評価した。</p>	A
安全や健康に関わる教育の推進	<p>交通安全に対する意識を高め、交通ルールの遵守を徹底する。</p>	A	<p>交通安全委員会が中心となり街頭指導を年3回(5月、10月、1月)行い交通マナー遵守を呼びかけた。また交通安全講習会について4月全校対象、10月3年生対象で年2回実施した。通学方法として自転車利用生徒は56%(4月調査)と半数以上であることから、年度当初に一斉自転車点検を実施している。年間交通事故数(1月20日現在)は11件であり、昨年同時期(19件)より減少した。この項目に関する保護者アンケートでは89%が達成と評価した。</p>	A
	<p>健康に対する意識を高め、感染症予防など日常の健康管理ができるよう指導する。</p>	B	<p>コロナ、インフルエンザ感染予防のため全教室に手指消毒液を設置している。今年度インフルエンザ感染予防のため年間を通して全5クラス、期間は各クラス3日間程度学級閉鎖した。保健委員会では生徒健康意識高揚のため「保健だより」を1月20日時点で12号発行している。3月末までに14号まで発行予定。この項目に関する保護者アンケートでは84%が達成と評価した。</p>	B

	地震等の災害に対する防災意識を高め、防災訓練等を効果的に実施する。	B	地震想定避難訓練を2回実施(6/5、10/22)した。6月グラウンド避難、10月は各教室で避難行動及び図上訓練であった。生徒防災委員会を事前招集し訓練前に各HRにおいて留意点説明を行った。12月1日県一斉の地域防災訓練への本校生徒参加率は8%(708人中57人参加)で昨年(28%)より大幅に減少した。減少理由は12月以前に訓練を実施する市町が多かったためと思われる。この項目に関する保護者アンケートでは81%が達成と評価した。	B
--	-----------------------------------	---	--	---

A～Dの評価については次のように規定する。

- A 十分に達成できた。
- B おおむね達成できた。
- C やや不十分な面が見られた。
- D 不十分であった。